

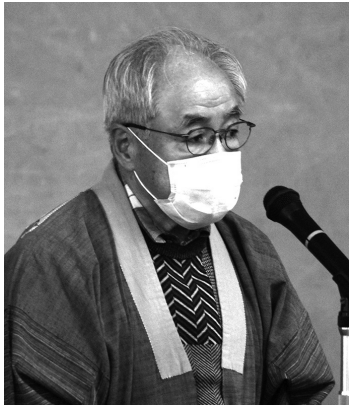
私たちは団体として 先住民民族の権利を要求していく

差間正樹 ラポロアイヌネイション

私 は白糠アイヌである父と、
十勝アイヌである母の間に
生まれました。子どものこ

ろから、まわりで起きるいろいろなこ
とが、何かおかしいなあと思いつつ、
ずーつといたんですけれども、それが
小学校、中学校と進むにつれて、だん
だん「アイヌであることは言わないで
おこう」というふうを考えるようにな
りました。

中学校のころは特にひどくてです
ね。学校で廊下に各クラスからアイヌ



差間正樹さん

の子たちを引っ張り出してきて、みん
なで殴るんですね。先生を呼んでくる
と、先生も太刀打ちできないんですよ。
殴っている子どもたちが、私の目の前
で「おれたち、もうすぐ卒業なんだけ
どなあ」って言ったら、先生はくるつ
と踵を返して、行ってしまっただけ
女の子も乱暴されたりするんですよ。
まあ、ひどい状態でした。

ました。
それで北大のアイヌ納骨堂のイチヤ
ルパに毎年、参加するようになって。
柵の上に遺骨が並んでるんですよ。
あれは何だろう？ と思って、帯広の
図書館の2階に入って、文献を読んで
みると、児玉作左衛門（北海道大学医
学部教授）という人が書いた文章の
中で、「アイヌの中には、遺骨に穴を
開ける習慣を持っている人たちがい
る」って書いてあるんですよ。むちゃ
くちゃ腹が立ってですね……。 「何バ
かなことを言ってるんだ」と思って、
その遺骨をぜひ返してもらおうと思
いました。でも地元の十勝のアイヌ協
会では「いや差間さん、そりや無理だ
わ」、こう言われたんですよ。それで
札幌の当時のウタリ協会の本部に出
かけていって、「遺骨を返してもらおう
はどうしたらいいだろう？」と言っ
たら、事務局員がこう言うんですよ。

高校・大学と進んでいくんですけれ
ど、やっぱりずーつとモヤモヤしてて
ですね。何でこんなに辛い目に遭うん
だろう？ これはきつと自分がアイヌ
であることを隠して、知らんぶりして
いるからだろうと考えるようになった
のは、もう40過ぎてからです。それ
で、地元の北海道ウタリ協会浦幌支部
に入りまして、いろいろな活動を始め

ました。
それで北大のアイヌ納骨堂のイチヤ
ルパに毎年、参加するようになって。
柵の上に遺骨が並んでるんですよ。
あれは何だろう？ と思って、帯広の
図書館の2階に入って、文献を読んで
みると、児玉作左衛門（北海道大学医
学部教授）という人が書いた文章の
中で、「アイヌの中には、遺骨に穴を
開ける習慣を持っている人たちがい
る」って書いてあるんですよ。むちゃ
くちゃ腹が立ってですね……。 「何バ
かなことを言ってるんだ」と思って、
その遺骨をぜひ返してもらおうと思
いました。でも地元の十勝のアイヌ協
会では「いや差間さん、そりや無理だ
わ」、こう言われたんですよ。それで
札幌の当時のウタリ協会の本部に出
かけていって、「遺骨を返してもらおう
はどうしたらいいだろう？」と言っ
たら、事務局員がこう言うんですよ。

「差間さん、簡単な話だよ。あなたが
祭祀継承者であることを証明すればい
いんですよ」
みなさん、分かりますか？ 祭祀承
継者。その当該の遺骨の子孫であるだ
けじゃダメなんです。その家のお
骨、お墓を守る人の系統に入っている
人、っていうことなんです。日本
の民法の言葉です。子どもの頃をうっ
すら覚えてるんですけど、アイヌは、
家にそれぞれにお墓があるんじゃない
んですよ。差間家・上西家・斉藤家・
佐藤家、今はそうなっています。そ
れは私たちが子どものころ（自治体の
墓地整理事業によって）遺骨を掘り返
して、火葬して再埋葬するっていう作



Utaspano uoupekare 互いに支え合う 葛野辰次郎『キムスポV』より

北大開示文書研究会
ニューズレター

2023年3月23日発行

34

業をやったからなんです。

それより前はどうしていたかという
と、ある人が死んで、埋葬する。次に
誰かが死んだら、その隣に埋葬する。
また誰かが死んで、その隣に埋葬する。
これはね、各家ごとの埋葬じゃないん
ですよ。はっきり言えばコタン、集落
がお墓を管理していたんです。

私は、弁護士のおすすめもあつたんで
すけど、私自身も「そうだ、これだ」
と思っただけです。つまり、北海道大
学の納骨堂にある遺骨を返してもらら
うのに、祭祀承継者を証明しなくても、
浦幌町から掘り出された骨であれば、
浦幌町に住んでいる私たちが返せと
言っただけ、何の支障があるか。それで裁
判に向かっていって、遺骨を返しても
らいました。

先住権を証明するために

おかげさまでいま、私たちは先祖と
ともに、先祖に守られて暮らしている。
私たちは日々、働きながら、先祖のカ
ムイノミ、イチヤルパを行ないながら
生活している。こういった意識に立ち
返ることができました。

もうひとつ、私たちは集団として活
動しているんですね。つまりアイヌ一
人一人が生活しているんじゃないんで、
団体が運動している。いま、アイヌ文

化財団にいる常本(照樹理事長)は、「日
本には先住民はいるけれども、団体と
して先住民はもういない」っていう

考え方なんです。私たちは先住権を確
保するために、サケの捕獲権を認めて
もらうように、裁判で闘っているんで
すけれども、国も北海道も「サケの捕
獲権なんてないよ」(と言うばかりで)、
歴史的にも「さう」とそこに住んでい
たとか、さういったことについては(国・

北海道は)一切触れません。「さうで
ある」とも「ない」とも、一切言わな
いで裁判はいま進んでおります。私た
ちに先住権があることを何とか日本の
社会に証明してみせようと思っただけ、
いま、世界中から、先住権を確保してい
る先住民の人たち、研究している人た
ちを招いて、国際シンポジウムを開こ
うとしています。世界中から先住民と
研究者を招くためにはみなさんの援助
が必要です。

私たちは今後とも、「アイヌである」
ということをどんどん運動して、あく
までも先住民の団体としての権利を
要求していくつもりです。この社会の
中で、アイヌを認知してもらえよう、
杉田水脈(みづの)のようなことを言う人がもう
「ギャフン」というまで、私たちは次
から次から、地域に対していろいろな
運動をしながら、闘っていくように思っ
ております。

先住権の闘いは、 和人をも解放する

殿平善彦 北大開示文書研究会

浦

河の杵臼(きねうす)の遺骨返還、あり
ましたね。私はあの遺骨返
還の闘いを応援するために、

北大から資料が公開されましたね、そ
れをみんなで読み取ろうということ
で、アイヌと非アイヌと、いろんな人

たちが集まって、北大開示文書研究会
というのを作りました。清水裕二さん
と、私は和人ですけれども、ふたりで
共同代表になっています。

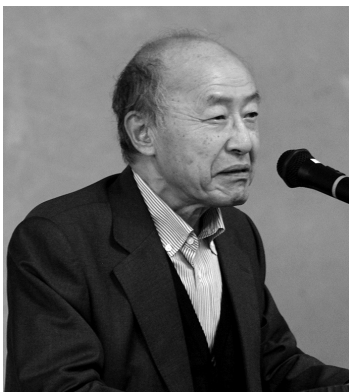
それで「お前もちよつと喋れ」と、(集
会企画者の)木村二三夫さんから言わ

れました。「和人で喋るのはお前くら
いだ」と聞きましてびっくりしちゃっ
て。和人の代表みたいな感じで立つて
しまっているのかなと思ったりしてい
ます。

植民者の末裔

私は1945年に北海道深川(たど)の多度
志(し)という小さな田舎町の寺に生まれ
た者でありまして。北海道を自分のふる
さとして育ってきたんです。でも小
さいころから、まったく何も知らない
まま、歳をとっていききました。私の父
も母も、奈良県の山奥から北海道に
来た者であります。ですから私は北海
道で生まれたけれども、ヤマトから、
奈良の山奥から北海道に移住した植
民者、その植民者の末裔(まっえい)が私とい
うことになるわけです。

そのことを本当に自分で理解するの



殿平善彦さん

は、なかなかたいへんでした。時間が
かかった。私は北見で、民衆史掘り起
こし運動に出合った時、山本多助エカ
シにお会いしたんですね。山本多助
エカシがね、私たちに言うんですよ。
「おまえたち」ってね。「このアイヌモ
シリへお前ら何しに来たんだ？ この
赤鬼、青鬼ども！ われわれの土地
を、お前らにやった覚えも貸した覚え
もない」と、強く言われました。それ
が私の30代の初めのころです。大きな
ショックでした。「へえ、私はそうい
う存在か」って。自分の場所だと思っ
ていたのに、実はアイヌの土地に本州
から来た者の息子なんだ、と。そこか
ら私は学びが始まったとっていいと
思います。その後、朱鞠内^{しゅまぐち}で朝鮮人強
制労働犠牲者の遺骨の発掘の仕事に取
り組むようになりましたけれど、その
中でようやく気がついたこと。それは
北海道が植民地だという事実でありま
す。

植民地として、今日まで私はここで
生活することになった。その後、明
治政府は今度は沖繩ですね。あそこで
「琉球処分」といって、琉球王国を潰
して沖繩県にしてしまった、あそこも
植民地にしたでしょう。その後、今度
は朝鮮半島に兵を出して、あそこもま
た韓国併合で1910年に植民地にし
てしまった。近代の日本は植民地国家
だったんですね。天皇を中心とした軍
国主義国家。そうやってとんでもない
戦争までやって、私が生まれた年に、
日本はその戦争に敗れて、新しい一歩
を踏み出そうとしたわけでありましよ
う。その時、私たちは、何とか軍国主
義だけは克服したかも知れないね。軍
国主義だけは止めた。でも実は、植民
地主義は、敗戦しても何ら変わるこ
とはなかった。

「居心地の悪さ」を引き受ける

植民地主義ってねえ、自覚できない
んですよ。自分がそういう所にいると
いうことをきちっと学ばなければ、自
覚できない。だから私は何も知らない
まま、戦後、民主主義国家になったと
言われながらね、北海道で過ごしてき
たけれども、ここが植民地であること
を何も知らなかったと言ってもいいで
しょう。こんにち、私たちは相変わら
ずその問題を抱えている。朝鮮人も沖
繩もアイヌも、あいかわず凄まじい
差別の中に置かれていたでしょう。私
たちはこの社会をどうしたらいいの
か。杉田水脈という人も、そういう植
民地構造の中から生まれてきた。政府
は彼女の発言を知りながら政府高官に
任命した。日本政府公認のヘイトス
ピーカーと言っているですね。
そこをなんとかしなければいけない。
僕はそれはね、やっぱり和人の歴
史認識を変えないとダメだと思ってい
すね。われわれ、知らないんですよ、
植民地にいるということね。その事
実を私たちがいかにちゃんと自覚して
学ぶか。

私は小川隆吉さんたちに会って、遺
骨返還の道を一緒に歩み、いま差間さ
んたちと一緒にラポロアイヌネイショ
ンの……。国際会議が今ね、開かれよ
うとしているんですね、今年の5月に。
その準備などを手伝わせていただきな
がら、ようやく私は、この長い長い人
生をかかって、自分の住んでいるとこ
ろが植民地だったって、ようやく理解
するようになった。

途端に居心地が悪いんですね。自分
の場所だと思っていたのに、どうも変
だぞというわけですね。でもね、その
居心地の悪さが大事なんです。それ
を自覚できないとね、やっぱりこの社
会が豊かなものにならない。アイヌ先
住権の闘いというのは、アイヌのため
でもあるけれども、いつそうわれわれ
和人がね、和人自身が自分を解放して
いくためには、やはりきちっと植民地
支配を克服しないと、この社会ってね、
ろくな社会にならないんだ。まあ、私
はそんなことをようやく、70過ぎて学
んで今日にいたった。この集いに呼ん
でいただいて何か喋れと言われれば、
そんなことしか喋れないんだけど
も、自分の過去をふりかえりながら、
日本社会をこれから豊かなものにする
ために、植民地主義を克服するために、
みなさんと一緒に歩ませていただき
たい。そのことを私の願いとしてお伝え
します。

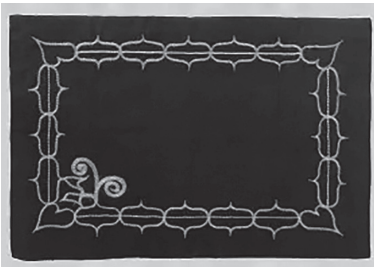
2023年2月25日、「人である人」
集まろう！政府・杉田水脈議員に対す
る抗議集会（札幌北区民センター）で
のスピーチから。北大開示文書研究会
とラポロアイヌネイションはこの集会
の賛同団体です。写真撮影・平田剛士。



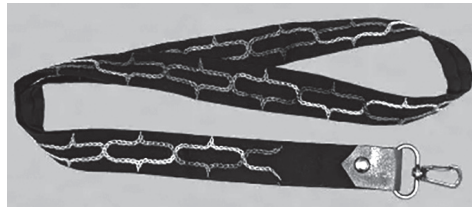
ラポロを応援して
特製アイテムを
ゲットしよう！



ラポロアイヌ支援
クラウドファンディング



手作りアイヌ文様刺しゅうランチマット



手作りアイヌ刺しゅうネックストラップ



アイヌ文様刺しゅうコットンマスク

サーモンピープル

アイヌのサケ捕獲権回復をめざして



ラポロアイヌネイション／北大開示文書研究会：著
2021年6月刊 かりん舎 定価 1300円＋税
お問い合わせ 北大開示文書研究会事務局
TEL (FAX) 0164-43-0128

最新情報はこちらから

ラポロアイヌネイション
サケ捕獲権確認
訴訟支援センター



www.kaijiken.sakura.ne.jp/fishingrights/index.html

Utaspino uoupekare 互いに支え合う 葛野辰次郎『キムスポV』より
北大開示文書研究会ニューズレター No.34 2023年3月23日
編集・発行 北大開示文書研究会
共同代表 清水裕二、殿平善彦
事務局 〒077-0032 北海道留萌市宮園町3-39-8 (三浦忠雄方)
FAX 0164-43-0128 <http://www.kaijiken.sakura.ne.jp>
ロゴデザイン 浅野由美子